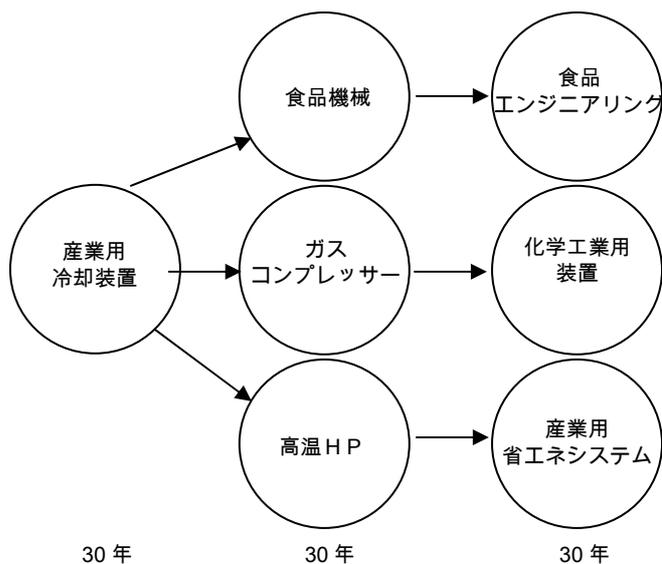


【ドイツ講演 挨拶文】

ご出席の皆様

今回は、前川製作所の発表の機会をいただき、大変ありがとうございます。

ダニエル氏の説明の前に一言、前川製作所をご紹介します。



前川製作所は 90 年近い歴史を持っていますが、今までに 3 回変身をしてきました。

90 年の間に、食品、ケミカル、環境分野へ展開してきました。また、1 つの担当分野だけでなく、製造もサービスもエンジニアリングも技術開発もできるようなマルチ型人間を育ててきました。

20、30、40 代の社員は複眼的に物事をとらえ場を広げられる創造的な「マルチ型人間」を目指して、数年ずつ色々な仕事をローテーションで経験しながら成長をしていきます。我々はこの時代を「動の時代」と呼んでいます。この「動」の 30 年を過ごした後、50、

60、70 代を我々は「静の時代」と位置づけています。

動の時代が外から学ぶ事が主体になっているとすると、静の時代は自分が動の時代にやってきた事を棚卸ししながら、自分らしい静の 30 年をどう過ごすかを、仕事を通し、動と連携しながら学んでいく時代と考えています。

事実 21 世紀は 20 世紀と違って、量は増えませんが、質の高い製品が要求される時代に入っていきます。この時代は 20 世紀で「動」を過ごしてきた人間の 30 年の成功経験、失敗経験を通して学んできた事が土台となって、次の市場の要求、質の時代に対応できる様になると考えています。

実際、最近の前川から出てくる新しい開発は、静のメンバーが中心になって進んでいるケースが多くあります。動が 5 年までの短期計画を立て、活動しているのに対し、静は 10 年、20 年先を 5 年ごとに延長させて読んでいきます。そして、3~5 年先に出てくる新商品開発は静を中心に進めていきます。これは目の前の仕事に追われている動では無理です。

一方で 20 代の若者は 2~3 年、2~3 名ずつ静のチームに入り、静のサポートを受けながら、静が経験してきた「ここまでやると失敗する」「こうやると成功する」ということを学び、大胆に仕事に挑戦しながら成功する術（冒険）を学びます。

この様に前川にとって次世代をつくる静はなくてはならない存在になっています。むしろ 21 世

紀の製造業は、動と静の連携なしに考えられない時代に入っていると考えます。

色々な問題は今後も出てくると思いますが、我々としては問題を解決しながら進んでいこうと考えています。これが定着するにはあと5年、10年とかかると思います。しかし、我々には30年かけて1時代をスタートさせ、完成させ、社会の変化と社内の成長により、また新しい前川製作所を30年かけて創ってきた歴史があり、これをよく参考にしながら静と動の時代の融合を完成させたいと考えています。

2010.6 前川 正雄